

# 1. 一般質問

## 令和元年度 第3回定例会

以下の2項目について、一般質問しましたので、主な内容を報告します。

### 1) 摂津ブランドの更なる構築と魅力発信について

私は、本市の強みや魅力を広義の意味で「摂津ブランド」と捉えています。本市の強みや魅力を更に構築し、市内外の方々にもっと広く、強力にPRして、摂津のイメージ向上や市民の**摂津への愛着や誇りの醸成に繋げて行く**必要があると考えます。

摂津のブランド力を更に構築すべく、本市として、優良な中小企業に対し、もっと積極的に働き掛け、「**摂津すぐれもん**」をもっと輩出し、その魅力を発信することで、需要をもっと呼び込むべきと考えています。本市が大田区や東大阪ブランドに類する様な、「摂津ブランド」を築くことが出来れば、**中小企業にとっての遣り甲斐と誇りに繋がる**と考えます。

「東大阪ブランド」は、国内で自社のみが製造している「オンリーワン製品」特定市場でトップシェアの「ナンバーワン製品」、従来製品にはない付加機能、価値を有する「プラスα製品」という3つの認定基準があり、何れかを満たす製品を、市がブランドとして認定しています。本市において、**企業同士のビジネスマッチングを促す**意味でも、オンリーワンやナンバーワンといった企業向けを意識した、「**匠**」の様な技術的な視点を、「**摂津すぐれもん**」の認定基準に加えることを提案しました。

また、摂津を象徴するブランドの一つに、今、**注目度が増している「鳥飼なす」**があります。本市では唯一、「なにわの伝統野菜」に認定されており、摂津ブランドの更なる構築に向け、これを活かさない手はありません。

しかしながら、市民にとっては、まだまだ**手に入れるのが難しい状況**であり、取扱店舗や魅力などのPRも不足していると感じます。鳥飼なすを、もっとなじみ深いものにするには、更に生産量を増やし、流通させることで、露出度が上がりますし、そろそろ保存という考えから、**裾野を広げて行く次期にきている**のではないかと考えます。

色々な角度から本市の強みを見極め、摂津生まれの製品や食材などを活かしながら、摂津の魅力を高めなければなりません。もっと新しい価値、すなわち、**摂津ブランドを更に構築し**、その魅力を発信して行くことを要望しました。



### 2) 鳥飼地域の活性化・魅力化について

**鳥飼地域は、加速度的に人口減少、少子高齢化が顕著**であり、この深刻な状況を鑑みますと、もはや、**待った無しの状況にきている**と私は感じています。

鳥飼地域の課題に係る対策は、鳥飼地域の魅力づくり研究会での結果を踏まえつつ、まずは、鳥飼地域全体のまちづくり構想、すなわち、**グランドデザインを描くことから始めるべき**と考えます。

グランドデザインは、市民が愛着や誇りを持ち、市内外の人からも魅力的に思われる**目指すべき鳥飼地域の姿や戦略を明らかにすること**に主眼を置き、描くものです。これを切っ掛けに、様々な施策や活動が生まれ、賑わい創出に繋げる為の青写真であり、達成に必要な財源やスケジュールを詳細に規定するものではありません。

グランドデザインを描くことにより、**点の議論を線や面で捉える**ことができ、それぞれの施策や必要な機能の優先順位も明確になって来るものと考えます。

鳥飼地域のグランドデザインは、鳥飼地域の人口減少、少子高齢化の進展を悲観するものではありません。むしろ、**それを強みとした地域社会を構築して行く**為に、誰もが住みなれた鳥飼地域で、いつまでも暮らせる総合ビジョンを立ち上げるものです。

具体的には、ハード面・ソフト面の両面から進める必要があります、**複数の課題を同時並行的に解決する構想を描く**必要があります。それには専門性も必要となり、部の垣根を超えたチームで練り上げて行く必要があります、**部局横断的な組織体制の構築が必要**です。

次年度には、しかるべき予算と組織体制を構築し、具体的な検討に移るべきと要望しました。

#### 『市長答弁』

**鳥飼地域は大きな可能性を秘めており、再構築を考える**必要があります。**プロジェクトチームを結成する**等、方法は色々ありますが、中長期の展望をしっかりと持ち、新年度に向けて、方針を定めて行きます。

**※鳥飼地域の活性化・魅力化を具現化すべく、プロジェクトチームが結成される可能性が出て来ました！**



#### 光好博幸後援会とは

「光好博幸」の政治活動を**支援し**、**会員相互の親睦**を図るとともに、「**市民参加による魅力あるまちづくり**」を積極的に進めることを**目的**としております。

なお、この会は、特に会費を徴収せず、寄付金や賛助金を持って、運営いたします。皆様の政治に対する想いをお聞かせ下さい。

## 令和元年度 第4回定例会

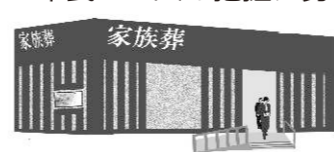
以下の4項目について、一般質問しましたので、主な内容を報告します。

### 1) 葬儀会館せつつメモリアルホールについて

一昨年の公正取引委員会より報告された調査結果によりますと、全国で行われている葬儀の割合のうち、**家族葬が28.4%**との結果が出ております。小規模な葬儀を希望する方が年々増えており、現在では40%以上とも言われておりますが、もはや一般葬と並んでスタンダードになったと言えます。

当該会館におきましても、市民ニーズに応えるべく、間仕切りやパーティションを施し、**家族葬などの小規模化にも対応すべき**と考えており、トイレの洋式化やバリアフリー化など、**どなたにでも利用しやすい葬儀会館を目指すべき**と考えます。

市民ニーズの把握に努め、計画的に進めることで、当該葬儀会館の利用率も向上して来るものと考えます。



6月議会では、南側駐車場の砂利敷きの問題に関しても取り上げました。市民の安全を担保し、相乗効果を生み出す意味でも、**南側駐車場をアスファルト化すべき**です。小規模葬儀への対応と同時に、次年度の予算へ計上頂ける様に、強く要望しました。

### 2) ひきこもり状態の方々への支援について

40歳から64歳までのひきこもりの方の人数が、全国で推計61万人に上ることが内閣府による初の調査で明らかとなり、高齢の親がひきこもる中高年の子供を支える「**8050問題**」は深刻さを増しています。

広報せつつ12月号では、「ひきこもり」の特集が組まれており、これから、相談件数が増える可能性が高いと考えますが、ひきこもり状態の方々への支援は、**特定の部署だけではなく、市全体、或いは、地域社会全体で取り組んで行かなければならない**と私は考えます。

ゴールを社会復帰と見据え、如何にして、その**出口まで導くかの戦略を構築するケースマネジメント**が、相談窓口の最も重要な役割と考えています。

私は、**庁内全ての部署がひきこもり支援の受け皿であるという認識を持つ必要がある**と考えます。また、就労による自立は、人手不足の企業に取ってもプラスとなります。働く為の第一歩として、就労準備支援も重要となりますので、市内での**職場体験先や就労先の新規開拓**についても、精力的に取り組んで頂ける様に、要望しました。



### 3) 道路交通環境の改善について

現在、鳥飼大橋の拡幅工事が実施されており、北行きの追い越し車線が、終日1車線交通規制されています。この工事に伴い、鳥飼大橋の南詰を基点として、**大阪中央環状線の北行きに大規模な渋滞が発生**しています。

原因は、鳥飼大橋の南詰にて2車線が1車線に減少していることによるものです。渋滞緩和策として、**工事進捗に合わせた規制範囲の変更**や、**大阪中央環状線本線を優先的に誘導する区画線を設置**し、車線減少を無くすことで、大きく渋滞が緩和すると思えます。加えて、工事期間中だけでも**鳥飼仁和寺大橋を無償化**し、迂回して頂くなどの対策を講じるべきと考えます。

本市には、大阪高槻線にも多くの課題が残されており、一津屋交差点における渋滞解消は、長年に渡る懸案事項です。東行きの渋滞解消につきましては、**左折レーンを設ける**ことも、有効な手段の一つと私は考えます。

本市の道路交通環境を俯瞰的に捉え、あるべき姿を描くと共に、着実に改善すべきと考えますので、引き続き、大阪府の関係部局に対し、積極的な働き掛けを要望しました。



### 4) 鳥飼地域の活性化・魅力化について

鳥飼地域に関しましては、毎回取り上げており、9月議会におきましては、賑わい作りの一つの手段として、移動手段の確保という観点から、「**移動し易い街**」というコンセプトを掲げ、取り組んではどうかと提題させて頂きました。特に、鳥飼地域は、他の地域に比べ人口減少が顕著であり、魅力作りを仕掛ける一方で、**移動手段を確保**して行かなければならないと私は考えています。

また、地域活性化の一つの切り口として、「**道の駅**」を核とした賑わい創造の拠点作りや、シティプロモーションの推進を提題させて頂きました。その際、銘木団地を取り上げましたが、**銘木団地には魅力があり、本市の観光資源としての可能性を秘めている**と私は考えています。森林環境譲与税を活用し、銘木団地の魅力発信や活性化、賑わい作りを仕掛けてはどうかと考えます。

これらの仕掛けは、やはり単一の部局では成し遂げられず、**部局横断的に取り組む**と共に、鳥飼地域全体を俯瞰的に見つつ、地区毎にゾーニングし、コンセプトを明確にした上で、様々な取り組みを連動させる必要があります。

次年度に、具体的な構想を作り上げる為にも、改めて、**プロジェクトチーム**を立ち上げて頂くことを強く要望しました。

